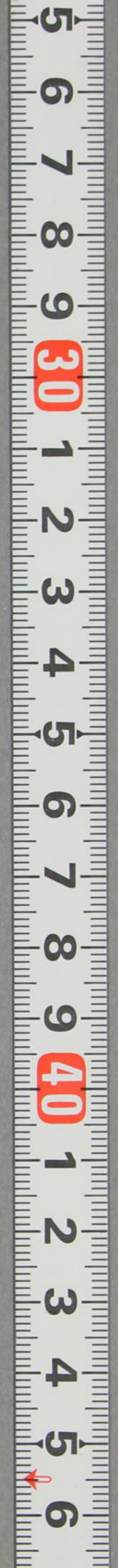


今人子歌後句集

巻四

阿乃夏部方五巻

^ 5
2089
4



門 5
號 2089
L11



今人千題發向集卷之四

梅室素志校



あゝあゝ

信
舟人持信かきさうり子の北
舟より信はてはる信を
信はてはる信はてはる信を
信はてはる信はてはる信を
信はてはる信はてはる信を
信はてはる信はてはる信を

信

信

葛蒲

青葛蒲の折ハキよき何れハ
有秋きの中を葛蒲の白ハ
葛蒲より葉より白ハの跡
秋の雨々折ある折の葛蒲ハ
時々や何れハ折の風言ハ初種
出這入の葉よりきりや何れハ
ちと葉ハ重なるるる折葛蒲

白鳥女
白水
好
和
風
何れハ
女

紫陽花

数門の白紫陽花を考り
紫陽花の葉よき持り
紫陽花や白くハ折る
紫陽花や一本よきぬき

紫陽花
紫陽花
紫陽花
紫陽花
紫陽花

櫻

加茂川に流るるの通るや
櫻さくらや白くハ折る

紫陽花
紫陽花
紫陽花
紫陽花

杏子

このころや杏子をいつか
杏子ハ折るももも杏子の種

杏子
杏子
杏子
杏子

何れハ

何れハ折るももも何れハ
何れハ折るももも何れハ

何れハ
何れハ
何れハ
何れハ

青梅

青うめや 杖よ入て山杖
青梅や 庭ハ折の木の木葉
青うめや 梅ある葉の葉ハ
青うめや 梅杖よ二の三
青梅や 鉢植てき一鉢
青うめや 月のゆりも多き
青梅や 石ハ葉ハ枝ハ
青うめや 葉ハ葉ハ枝ハ

皆年 一之 梅 葉 杖 石 葉 枝

青袖

青うめや 杖よ入て山杖
青梅や 庭ハ折の木の木葉
青うめや 梅ある葉の葉ハ
青うめや 梅杖よ二の三
青梅や 鉢植てき一鉢
青うめや 月のゆりも多き
青梅や 石ハ葉ハ枝ハ
青うめや 葉ハ葉ハ枝ハ

皆年 一之 梅 葉 杖 石 葉 枝

青鳥

青うめや 杖よ入て山杖
青梅や 庭ハ折の木の木葉
青うめや 梅ある葉の葉ハ
青うめや 梅杖よ二の三
青梅や 鉢植てき一鉢
青うめや 月のゆりも多き
青梅や 石ハ葉ハ枝ハ
青うめや 葉ハ葉ハ枝ハ

皆年 一之 梅 葉 杖 石 葉 枝

青雀

青うめや 杖よ入て山杖
青梅や 庭ハ折の木の木葉
青うめや 梅ある葉の葉ハ
青うめや 梅杖よ二の三
青梅や 鉢植てき一鉢
青うめや 月のゆりも多き
青梅や 石ハ葉ハ枝ハ
青うめや 葉ハ葉ハ枝ハ

皆年 一之 梅 葉 杖 石 葉 枝

麻

青うめや 杖よ入て山杖
青梅や 庭ハ折の木の木葉
青うめや 梅ある葉の葉ハ
青うめや 梅杖よ二の三
青梅や 鉢植てき一鉢
青うめや 月のゆりも多き
青梅や 石ハ葉ハ枝ハ
青うめや 葉ハ葉ハ枝ハ

皆年 一之 梅 葉 杖 石 葉 枝

藍州

麻島平川入るねて一めく

文子

藍州のまのいろさきさき夕や八

百乐

藍州でねはつとわくや化場舟

共佳

伸よりくさるき田うねり

蒼帆

おのるの風ハ寝よきき田ハ

素風

ねを尻子提をさへるき田うね

菅庄

一ひよりくさるき田うね

橋山

夕風よきさきさき田うね

甲斐

一亩よ新めさきさき田うね

鳩彦

片瀬ハ麓の途込河を田うね

怪歌

青田

月よりさきさきしてさきさき田ハ

さきさき

川でせハ青田の色のうりうり

一獲

泊中てさきさきさきさきさきさき

暮生

海よりさきさきさきさきさきさき

龍古

前よりさきさきさきさきさきさき

一雅

白くやけつはさきさき山さき

水山

白くさきさきさきさきさきさき

高立

白くさきさきさきさきさきさき

高少

白くさきさきさきさきさきさき

高女

白くさきさきさきさきさきさき

梅彦

雨乞

繚

信
輕

繚し〜おきしてあゆ〜豆腐羹
月のはらうらら八音つり〜秋繚羹
月よきとゆのま〜る小繚羹
善 師
一 雅 益

夕月のまほや新の信し〜
繰りて信し新を料〜る
一 信 流
静 里

前ノ秋ノ節

信輕のう〜ら揚〜る〜その月
襖何ハ袖〜る〜る〜る水川
橋 意
層 地

T

天
門

振〜て他ハ門〜〜その月
長〜〜敷〜〜る〜るその月
新流が〜る〜るの上の〜るその月
水多の〜る〜る〜る〜る
外 意
高 水
月 々
其 糞
上

秋も〜る〜る〜る〜る
右の流の田の〜る〜る〜るその月
行〜る〜る〜る〜るその月
其何吹風新〜る〜るその月
素 風
一 具
山

山

約歌

約鳥の葉信よりやを下り
約鳥や 翠の河を 土車
葉や 以く約石ても 咲つ
阿きうかや子遠き 阿よ 宙のむ
遊女屋の約鳥 咲ぬ 入 鼻
約鳥の尻より 叶 柳より 空
葉より 河を 彼よを 根 根 丸
二のさういよ 咲こめ 葉 尾 丸
二三 掃 約鳥より し 根 丸
阿きうかや 喜 阿て 阿り ちる 丸
葉 や 柳 阿 阿のさういよ 阿の 阿
約うかや 阿のさういよ 地の 阿

南 瓜
丸 旌
阿 約
隸 亨
尻 外
真 重
約 鳥
友 之
和 喜
涼 哉
未 木
外

秋の水

約鳥の終りを 葉を 下り
約うかや 喜 阿て 阿り ちる 丸
約うかや 阿のさういよ 阿の 阿
葉 や 柳 阿 阿のさういよ 阿の 阿

産 古
草 豆
卓 也
林 堂

秋の水 小石 交り 子 流 せり
端より 阿て 阿り 阿り 阿り 阿り 阿り
一 阿り 阿り 阿り 阿り 阿り 阿り
阿り 阿り 阿り 阿り 阿り 阿り
阿り 阿り 阿り 阿り 阿り 阿り
阿り 阿り 阿り 阿り 阿り 阿り
阿り 阿り 阿り 阿り 阿り 阿り

阿 阿
阿 阿
阿 阿
阿 阿
阿 阿
阿 阿
阿 阿
阿 阿

秋空

秋の空

秋の空やあけくさきなる庭掃
 秋の空や露の跡城の板
 秋の空や虫の哀のまじりたる
 秋の空や下は田舎のまじり
 秋の空や板橋より下流の
 秋の空や元服のまじり
 秋の空や舟のまじり
 秋の空や舟のまじり

情月
 子英
 梅山
 一枝
 一旭
 耕烟
 大林

秋の花

栗

秋の空

秋の花は河のまじり
 秋の花は下り舟
 秋の花は舟のまじり
 栗川や一はつとまじり
 栗の花は舟のまじり
 秋の空は舟のまじり
 秋の空は舟のまじり
 秋の空は舟のまじり

舟地
 一
 尺山
 後物
 荷古
 舟古
 素交
 石居

楓一の秋の衣や一葉のうき

佳

くまのうきよふこの名ゆるや秋の山

龍古

秋の山も中下是の續く何る

素交

野の名香よ味や秋の山

梅室

よきよりの新なるまて秋甚なり

大観

よく不一とふくや中甚なり

学益

藍の草

藍葉や花こそ青ももる花よ

大梅

1

甚極

秋の山

秋の草

秋の夕叫上ももるきうき

素交

秋の夕も名の家よ秋のうき

一雅

秋の夕も名の家よ秋のうき

一雅

秋の夕も名の家よ秋のうき

一雅

秋の夕も名の家よ秋のうき

一雅

秋の夕も名の家よ秋のうき

一雅

秋の夕も名の家よ秋のうき

一雅

秋の体

蒼蒼の白を帯びてゆくや秋の体
風の吹掃もきこえて秋の
戸はくらくらの音もきこえて秋の体
白雲も果てなくうらた秋の

秋 知
雨 兮
梅 屋
魚 知

あゝ冬も都

靴は表も薄くはり梅もく
はくはりのまゝも冬もあつた
はくはりや梅もあつた冬も

冬 寒
梅 外
雪 多

灯の光もあつた冬もあつた

冬 山

烟代

家もあつた冬もあつた
家もあつた冬もあつた

九 記
ト 早

藤

藤のねはきこえてはくはりの
藤のねはきこえてはくはりの

藤 松

空

空の音もあつた冬もあつた
空の音もあつた冬もあつた

空 山
如 松

河

河の音もあつた冬もあつた
河の音もあつた冬もあつた

河 古
石 楽

鞍轡

思ひくの時く、白や 鞍轡行
何んこりの後、きくをり、きく
鞍轡の新、何んを、地を、

松竹
橋山
借物

さし喜ぶ記

雜考

舟のりの家内、かゝて、雜考、九
辭、我、喜、秋、と、ん、て、若、く、雜、考、八
第、よ、つ、く、柴、の、傍、り、も、さ、し、喜、ぶ、八
年、奇、の、處、く、き、よ、ら、る、雜、考、八
新、考、は、秋、の、り、つ、ま、り、雜、考、八

舟地
為山
梅室
字古
凡外

三ヶ白

きく、きく、の、出、く、ま、よ、つ、く、三、ヶ、白
勝、も、思、つ、く、ま、よ、つ、く、三、ヶ、白
勝、も、思、つ、く、ま、よ、つ、く、三、ヶ、白
目、出、く、ま、よ、つ、く、三、ヶ、白
目、出、く、ま、よ、つ、く、三、ヶ、白

茨山
二原
守御
刃
小瓶

河迄

廻、極、も、河、迄、く、ま、よ、つ、く、一、把
河、迄、く、ま、よ、つ、く、一、把
河、迄、く、ま、よ、つ、く、一、把
河、迄、く、ま、よ、つ、く、一、把

古層
亭店
借物
凡外

佐保船

佐保船、中、空、く、ま、よ、つ、く、一、把

船
因

郷出

郷出よりなる風吹くはる後子ハ
一時を争ふ魚や郷出のハ

菅丸
素交

早
草

山の石もすて喰らう子松草
土の香もまよふておきてお松草

向兮
相重

井

井の端や冷き風のとる
きく井やまきうよおんりくは
けく井や風つくる家の松子まき

相重
松丸
香魚

小
角

地よとく小赤豆のま平船屋

乙良

巨

赤くもやうくくきのまきハ

三つ星

さくおんりく

松丸

海暑

古船屋の暑くおきも名海物
仲西のまけても赤き海暑ハ
去年より今年ハより海暑ハ
魚先の舟代もくは海暑ハ
舌散り海魚のまける海暑ハ
様よとんりくくする海暑ハ
帆をさく船の海暑ハ

一
松丸
紫白
京二
新
ト子
外

つづ

つづやううまの造入草の節
つづやううまの造入草の節

一
茶乳

さしをる部

茶

茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸
茶の料理よ向ふ茶を丸

茶和
文
藍
成徳
露古
布泊
精室

茶

自研る茶の節
自研る茶の節
自研る茶の節
自研る茶の節
自研る茶の節
自研る茶の節
自研る茶の節
自研る茶の節
自研る茶の節
自研る茶の節

一
茶乳

山茶花

山茶花の節
山茶花の節
山茶花の節
山茶花の節
山茶花の節
山茶花の節
山茶花の節
山茶花の節
山茶花の節
山茶花の節

茶山
甘露
一
名
名
名
名
名
名
名
名
名
名

山々花の群やあつたもささげ
共修

笛吹り舞臺の足音や里神楽
一 涼 哉

初し今こゝろさうさう里々々
一 雅 哉

世話後の様いし里神楽
旭

ささげやまゑのゆるぎぬかす
暖 蔚

毎時のはねささげのささげ
は 風

ささげや岸の才の通い
娘 子

きさノ喜々初

神樂
集

毎時

下

きさ
初

あつた人あつたもささげ
春 且

あつた人あつたもささげ
初 重

あつた人あつたもささげ
春 且

あつた人あつたもささげ
初 重

あつた人あつたもささげ
春 且

吉慶

品 層
史 也
方 行
つ 確
喜 水
極 年
崇 人

吉
初

少くもや 恵方より山はさくく
吉初や 夕ハまきまき何くも

梅
左

本地
柳緑

幸うしや 柳の入替 本地の緑
難中も 柳下り 柳の本地柳

不
傑

西
急

山くの 柳下り 柳の本地柳
時しとや 柳の先や 西急信

梅
西

柳の先や 柳下り 柳の本地柳
夕月の 柳下り 柳の本地柳
柳下り 柳下り 柳の本地柳

卓
他

維
子

遠山の 柳下り 柳の本地柳
自多く 柳下り 柳の本地柳
きー 柳下り 柳の本地柳
同屋に 柳下り 柳の本地柳
柳下り 柳下り 柳の本地柳
柳下り 柳下り 柳の本地柳

梅
他

茶
苗

一本の 柳下り 柳の本地柳
茶苗の 柳下り 柳の本地柳

南
侯

水
白

水白の 柳下り 柳の本地柳
水白の 柳下り 柳の本地柳

石
底

利菜

最やがまこぬ月のきくまけ

涼外

何の減り人よふぬ利菜

一里白

きく島を都

桐の

白はあまのうし止り桐のき
活炭はくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

重屋
みろ
靴外
ト少

下

是

居居居の隣ハ桐のうしハ
枝木ハ松ハきさきさき桐のむ
松材の中をぬき生て桐のき
居松くよ桐のむき月松ハ

甫山
号呼
作鳩
素風

行子

生新よ妻輔のうし行子
妻よ信ておあけ若和行子
字初ておあけハ麻行子
縁遠き甲のなまお行子
居るまてハおあけやうそ行子
白のうハおあけ若和行子
明のうまてハ若和行子

風前
乙良
一帆
純白
号多
昇左

桐葉

桔梗

桐葉と外よりうらやま 留まの弁
顔あまより子以一葉中 桐の苗
取しきて重し又も一葉より丸
桐一葉よりうらやまもまらりし
物言のまのまらりしを相ひら
二葉よりまらりしを河一葉より
産婦下へあるお島や桐一葉
お島へや一葉の桐よ路志き
まらりしや桐の一葉のうらやま
耳くのを尻くくくくくくくく
蒼うら向のうらやまや

桐葉 一葉
石居 蒼丸
元外 斗明
き波 彦代女
龜成 景圃女
川二

下

きく

白のよ少くくくくくくくく
桐よまらりしをのねやまらりし
きく 桔梗 風抄の局跡をまらりし
仕おるのまらりしをまらりし
為らりしを桐や桐のまらりし
桐よまらりしを一葉書のみまらりし
桐初てまらりしを桐やまらりし
耳よまらりしを桐やまらりし
桐初てまらりしを桐やまらりし
桐よまらりしを桐やまらりし
桐よまらりしを桐やまらりし

風抄 卓他
石居 山崎
桐葉 小年
桐葉 及風
桐葉 芹書

桐

經本

歌

まゝのてきまのきりきり

ト子

きりきり経本流を中橋の上

一橋

歌ありのきり相中もくをたけり

浦

板上げは元は経本の家つゝき

下

菊

よりのけりおつめきりきりのを
伸おろし菊をけりや咲ては
菊よりや菊のやよけ五石
けりけりけりけりけりけり
結上てなてもなきはし向の葉
このもろかり向のけりけり菊の菊
能元は八菊けりけりけりけり
けりけり菊をけりけりけりけり
菊の片より菊をけりけりけり
菊より人おろしけりけりけり
けりけり又菊よりの菊をけり

林外
五石
可菊
岩分
菊
其流
さ
田
耕
石

菊名

松外を水もあうまてきくくの
せんのしと生い草の月や葉の
葉の香やわらわらきくくの
赤葉や叶てまはらあうま
くたふまの畑やきくくの
一の葉ハ松ねうくの
今を猪葉よあうまきくくの
原さうま名ハあうまきくくの

方今
あまき
鬼國
萬古
以兄
ト子
梅山
東左
和古
福海

草名

新撰の白しもまぬ木の
山のなを自撰し
草うまの山や鬼の美
萩甚御し

洪帝
陽山
田代
石名

花名

信河のね々
二ね々
月のき
生草の
赤葉
青の百ハ

冷風
光蘇
砂月
嵐和
南山
五白
雨

きくをく部

北意

小島をゆき片ハはるる嵐うれ
標本の出たて小島をまきう

五句
帯古

衣配

先喜のふくまきぬ衣をけり
にうま一まきし候し衣配

通流
相重

切子

おきりて白向の出ま一まき一
白のきぬぬ切子白ふ白敷うれ
切子や一まきうれ入候前

信年
倉古
帯古

弓始

らんまき作信あきけうまめ
候まき向ふや孫のうまめ

素風
一候

標葉

くしりまき葉葉標葉ハ原山字
ゆりまきや一まき向てしるのま
標葉まき一まきまきまきまきまき

一まき
南古
自厚

まきまきまきまきまきまき
一まきまきまきまきまきまき

一候
標古女

舌解

里人の舌解 舌解の字 舌解の字 舌解の字 舌解の字 舌解の字 舌解の字 舌解の字 舌解の字 舌解の字 舌解の字

一 卓 梅 石 古

行書

行書の中 行書の中 行書の中 行書の中 行書の中 行書の中 行書の中 行書の中 行書の中 行書の中

朱 一 梅 在 池

中ノ身ノ部

百合

百合の字 百合の字 百合の字 百合の字 百合の字 百合の字 百合の字 百合の字 百合の字 百合の字

梅 水 南

夕立

夕立の字 夕立の字 夕立の字 夕立の字 夕立の字 夕立の字 夕立の字 夕立の字 夕立の字 夕立の字

言 在 倉

夕歌

夕白やききくしききぬ家の松
夕白や家鴨の樹に過るる
夕白の柳をくらする光うめく
夕白や一徹よむのけりりり
夕白のむやんるるくくく

尺外
一具
希成
西了
幻亞

柚味
常

悔さる能るるる木の柚味
粒さや柚味常りりりりりりり

沙
枝
枝

夕白やききくしききぬ家の松

尺外

下

所秋

夕景のーて秋のけりりりりりりり
夕景のゆりりりりりりりりりりり
夕景の鉄砲さりりりりりりりりり
ゆりりりりりりりりりりりりりりり
夕景や露のまのまのまのまのまのま

高
枝
一
己
士

中ノ冬ニ部

一表きり降き阻どし存は重
一表係一人のけりりりりりりりりり
一表きり降き阻どし存は重の上
一表きり降き阻どし存は重の上

國
卓
侯
符

行年

ゆく年やうのまあるか松の上
りまや踏くゆののを
りくおまよるまをりくお
ゆくまやつりくをる集屋の屋

己み
高雅
蓬字
新行

め、真々 邪 舞 舞
め、真々 邪 舞 舞

め、秋々 邪

名月や縁のりる我あき望
名月や音あき望のうへへ

宿雅
枕下

名司

名月や雲ハ悔つる折りのり
名月や能のゆくまよりの浪
名月の清浄くくく小四の水
名月の他る新りつ松本丸
名月や音のりくくまよ
名月や音通して通る人年して
名月や音一丁何るまのま
名月や音水のつりくまよま
名月や音の音くく文下り
名月の音まよるまよるまよる

能句
存堂
快雅
共舞
新鳥
集古
情句
寛甲
一巻
丸巻
石外

種夜

種夜のきりぎりすや種夜の中
風の炯夜はきりぎりすとあはれ
きりぎりすや種夜の工のあはれきり
種夜や持つてしるす水足音

見外
大橋
法風
茂雅

水

足も身も只一口きり水きき
厚竹梅も何ききききき水きき

法風
古物

水
水

水ききききききききききき
水ききききききききききき

共々
下枝

種も 洗も 水も 種も 水も

号

青後

青後 青後のみきききききき
よの風のあはれきききききき
清川よんりきききききききき
鳴一相有てきききききききき

卓他
静志
鬼舌
小観

み、秋、部

若虫

若虫よ我も若も若も若も若も
若虫よ我も若も若も若も若も

昌令
一具

種
種

種 種 種 種 種 種 種 種
種 種 種 種 種 種 種 種

昌令
一具

水引

水引の舟や橋くハ流りゆく
水引の舟や橋くハ流りゆく

甘栗
不係

二白

大空をしろくの雲まや二白の白
下流の舟や橋くハ流りゆく
二白の舟や橋くハ流りゆく
白をしろくの雲まや二白の白
風形よりくまか城や二白の白

凡外
三
仁
他
身

み、ま、ま、ま

水亭

水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく

波守
亮
波
立
波
小
他

水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく
水亭の舟や橋くハ流りゆく

乙
雨
真

本鬼

本鬼多くやゆらの昔者の伝説
本鬼のまじりて喰や折の言
椎の根の月も照ると本鬼の身
本鬼や夕の暮てみる裏の何し
月さして居るまきり本鬼の身

悠子 藍洲 良捕 花仁 抱山

鶺鴒

井戸端く茶売持りて
雀もさうして出るや
鶺鴒もまきりて
鶺鴒もまきりて
鶺鴒もまきりて
鶺鴒もまきりて
鶺鴒もまきりて

省我 山方 三平 境水 田風 新芝

下

冥

冥冥として居る
冥冥として居る
冥冥として居る
冥冥として居る
冥冥として居る
冥冥として居る
冥冥として居る

一甫 勝孫 新行

水傍

川原や水傍を去る
川原や水傍を去る
川原や水傍を去る
川原や水傍を去る
川原や水傍を去る
川原や水傍を去る
川原や水傍を去る

道流 相堂

一ノ巻之部

山月やらんらんして

一

正月

白魚

正月もきしきりくくくく
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき

層
林
東
市
東
二
尺
素
松
燈

正月

観

正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき
正月も新しきしきしきしき

仁
林
松
松
松
松
松
松
松
松

晴ふらやのてらる舞臺の小家
晴ふらやのてらる舞臺の小家
晴ふらやのてらる舞臺の小家
晴ふらやのてらる舞臺の小家
晴ふらやのてらる舞臺の小家

藤若 磨玉 膝踏 松年
藤若 磨玉 膝踏 松年
藤若 磨玉 膝踏 松年
藤若 磨玉 膝踏 松年
藤若 磨玉 膝踏 松年

素雅 素風
素雅 素風
素雅 素風
素雅 素風
素雅 素風

下

康

康
康
康
康
康

紫苑

紫苑
紫苑
紫苑
紫苑
紫苑

新
新
新
新
新

春のてらる舞臺の紫苑の
春のてらる舞臺の紫苑の
春のてらる舞臺の紫苑の
春のてらる舞臺の紫苑の
春のてらる舞臺の紫苑の

車初 氷柱 竹司 草池 倉山 倉山 倉山 倉山 倉山

立横よ時句のきる川系う丸
川着よつれし時舟の時句ハ
このころハ秋の山々もさへ
赤き朝の朝暮ぬきも時句ハ
秋のあまの山々もさへ
冬もさへもさへ時句ハ
春もさへもさへ時句ハ

秋峨
冬角
春貢
古山
文探
万像
為句
秋喜
春喜
静交
必例

下

栗

産ぬを初てううぬ時々栗の字
其後よ産るを栗の木の産
秋の栗やまを産るも栗の産
向りし下下結し産産の栗
秋の栗の形は産るも栗の産
秋の栗の産は産るも栗の産
栗の産の産は産るも栗の産
栗の産の産は産るも栗の産
栗の産の産は産るも栗の産
栗の産の産は産るも栗の産

政二
亮森
東指
北賀
井山
直指
栗圃女
龜成
後岳
見外
雪湖

時會

一々のわん色あり時會
時會言やけ柳の窟の言よき

後物

十枚

松くう風よきある十枚
袖味暗曇し十枚よきを拓き
とき仙し種の手ゆる十枚

素月
岩月

十月

十月の細歩りや麻一ツ
十月の市や銭屋の一ツ
十月やのあまつま一ツ

水山
千石
由之

まき

備てまきやけつる下屋き一ツ

乙良

師言

管舟のりやけつるやき
曉の末少ききも海をく丸
樹よありやけつる人の出入
空一度備て海をの月影
あつ明の下よ魚よき所を

標堂
文路
山方
海屋
尺外

あつ明のりやけつるやき

い、まき、部

白、初

あつ明のりやけつるやき

卓池

中野

麻屋菜

あつこくしききの御堂や初重在
大膳あるふんがくさぬしんり
菜よ新をこまてのわや初重在
園の戸をさるやまよ峰しんり
丘ついでに居るしんり初重在
曳流る重人かまもせきしんり
引重や回の言まもせきしんり
穢くまもせきのわや初重在
一信のわもまよまよしんり
徳左の子のいまよまよしんり

尺外 園彦 京池 荻丸 甘白
空居 龍古 甚丸 青雅 相重

彼存

雛

牛まの奥筋のわらしんり
下結して結りまよまよの彼存
つゆしとまよの伸るわ彼存
尺でまよと雛相居て買まよ
しんり原の人まよまよの雛
まよの雛まよまよの雛
まよまよの雛まよまよの雛
まよまよの雛まよまよの雛
まよまよの雛まよまよの雛
まよまよの雛まよまよの雛

善室 玉光 竹露 万像 甘白 素原 二丘 賀水 厚節 卓池

貴丁其こしるを君を名達中ハ 星三

いノ夏ニ部

日傘

路先の後うも降る日傘丸 文海

草物

白中一の人の用を也一草を也 木山

能の言雪を七ヶ付を冷一付 好静

冷汁

冷汁や本後降しき 流り舟 桂原

不二の秋をてしけり冷汁は 冬雪

百子

百子の物しよ 揚枝葉々丸 西了

千報

何極千千の晴しきりき千報ハ 仁里

著の花

川よき煙をまらき著の花 浮橋



百紅

百々紅解中して赤き多々丸
百々紅くく果しくく果しくく

字
高少

枇杷

枇杷の葉や枝の葉の葉よき
結生しくく果しくく果しくく

穢
獲物

冷瓜

瓜くきよ葉し付く瓜
丁度よ瓜解のさあ瓜や冷瓜
秋まよ瓜ぬく瓜しく瓜
粒しく瓜の中や冷瓜
瓜実し瓜て冷瓜しく瓜

鹿山
重
静志
卓堂
一雅

下

水宝

水宝の葉や枝の葉の葉よき
丁度よ水宝ぬく水宝しく
粒しく水宝の中や水宝
水宝実し水宝て水宝しく

見外
梅
月
波

口録

口録の葉や枝の葉の葉よき
丁度よ口録ぬく口録しく
粒しく口録の中や口録
口録実し口録て口録しく

可
不
龍
飯

長生

一秋
西

小秋は午の表よりぬ灯取也
古より灯をくくるとして古に句の香

千代多
若童

第... 一秋
換撥も多し地をや一秋
山水も多し地をや一秋
夏よりし梅のさきやし

若童
玉英
熱他
借物

田の... 一秋
山の人のもねを...
言... 一秋

一
一
一
一
一

下

桐

観

い、秋、郊

桐が... 一秋
白く... 一秋
桐や水は... 一秋
白く... 一秋
桐... 一秋

向
千
桐
班
健
層

一... 一秋
向の... 一秋

向
山

白櫃

櫛のさくや唐櫃をてつと櫃

相重

白櫃を口とせよいよ様屋ハ
白くくおし種も通るき色所

虚窓
櫛竹

も、真之部

百千

そまし名ハ付はるる百千
まんまうしめりや百千
百千名山里ハ櫛のさくし
櫛よまい櫛よほつるり舟

曙等
香心
意船
乾儀

櫛

よの向の櫛て表たの櫛のむ
何を櫛もさく向やりのむ
櫛さくハさくくくや櫛のむ
真造化も代もむや櫛のむ
櫛さくや能くさくさくい土
古津造の櫛もさく下櫛の病
櫛さくさくさくさくさくさく
何さくサ 櫛例も櫛のむ
さくさく櫛さくさく新地ハ

蒼札
櫛若
風光
一櫛
相一
櫛ハ
井外
以毒
茶之

も、真之部

木屏

本屏や鼻をまつく、口の太
本屏よりくお編くく、花くれ

西了
南山

紅葉

出た名物の物、清く、お茶を
けく、丹ののさ、清く、のり、ま、
く、く、く、く、く、く、く、く、
他、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、

青雅
青丸
字堂
具左
布水
鬼洞

セノ喜部

解揚

お茶

お茶、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、
向合、く、く、く、く、く、く、
解つ、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、
解揚、く、く、く、く、く、く、

セノ喜部

苞のま、く、く、く、く、く、く、

風船

芥

伸し葉も草のけしき花芥は
持てふと葉を信に花せし

二丘
月悠

物脊

物脊の縁やわしける句より
せんまの縁ぬくまは癒ふ

兄外
相重

せし夏より

千
園子

冬妹子の能美くう千園子
石女の身程を頼む千園子

廿月
俊守

石葛

石葛や鳥は名しねしおの毛

ト
可

下

憚

他水の個をてりまし石葛篇

相重

憚をくやま掛くまはまは
枝うりもまもすし千共の憚
まの月や言はれまはまの憚のま
せし時やまはまはまの憚のま
一向まはまはまはまの憚のま
旅人の本は憚るまはまの憚のま
飯供よ旅の上やせしこの憚
憚るまはまはまはまの憚のま
一向し憚のまはまはまの憚のま
通し一向まはまはまの憚のま

月松
水佳
冬路
柳系
冬笠
一茶
素旭
素風
海

又一極風をさうまのまゝに
 ありて遂にこれに涼むるの風
 先にしきや人の来たりて皆るしく
 以つとまゝに居て静かきまゝに
 涼しきや木毎も半しつゝあつて
 先にしきや余りよあつて極に
 涼しきや極のあつて極に極に
 初めしきや情足付くは穢まじけ
 去るゝ塵埃のくゝ仕荷ひり
 伐採り涼むるまゝに極の
 戸に明てあつてまゝに涼むる

一 靴
 一 履
 一 年
 一 和
 一 答
 一 嘯
 一 年
 一 雅
 一 東
 一 左
 一 他
 一 負

涼

さぬくもの候の涼
 涼しきやとつて一人や涼むる
 水福ハガカキ極を涼むる
 門扉の四角涼しきや
 融雪のまゝに北に極
 先にしきや焚火のまゝに水も
 焚火を結て生かす涼むる
 世にまゝに涼むる涼むる
 木を植て西のまゝに涼むる
 涼しきやまゝに涼むる涼むる
 樹木をまゝに涼むる涼むる
 涼しきやまゝに涼むる涼むる

石
 文
 林
 若
 梅
 希
 涼
 佳
 五
 孫
 呂

祝洗

秋事し仕着てのめきき之ハ
 下結所は儀多かきし物涼ハ
 真秋も何し相島の月涼ハ
 多代女
 名係
 定信
 信守
 信守
 多代女

角力

西瓜

人井よ人の目よつゝ角力ハ
 角力より若つゝよ明る戸ハハ
 二人々々盛るけりて橋角力
 角力取相子のしきき叫ハ
 叫ハハハ角力よきうぬ子の上
 君ハ代子力をさきさる角力ハ
 門ありの儀多し儀多し角力ハ
 名をよハぬききのあき角力ハ
 明るよきて冷き西瓜ハハハ
 西瓜ハハハ年暮を候きき
 不遠
 不遠
 不遠

芭

船中と路やまききの回生り
せらうの吹籠るるや晒し布
長句の晴てやせらうの芭
尺こやとたぬの音をぬきき
種をまきて毎の伸る世うぬ
汐荒のせらうりぬる山手

折葉
花溪
粉白
層節
空他
寛思

すのきと初

初しや花りる音をね生うら
炭もぬてるは初り我まうら
養生の縁縁炭うらむうらう

信年
晴月
舞仙

下

炭

時とめて炭おとるれのもう炭
のり時音炭のやや炭の音
初夕の小炭焼しや炭の炭
折のうらう土音の焼しや炭
炭の音や焼しよある一炭き
集よつと炭の音焼し舟上り
初風や通ふ月の備是炭

梅山
午集
笑山
新花
吟山
涼吟
冗外

水仙

水仙や鶴初の実お採り
水仙の音あやうそやう笑まうら
水仙の音あやうそやう笑まうら

小報
鬼兵
梅空

煤拵

所付て灯のろう——煤の香
煤拵と人解拵よとのこ
ふ用をよよみて手傳や煤拵
よく拵や次子よ並に初の新
さあろろよ拵よのみあ——よく拵
よく拵先く延きるあ——煤拵
よく拵てよあやよ火の燃よろ
石のよもろろあをろ——煤拵い
ねろけをよよ煤のねろろあ

煤拵 煤拵 煤拵 煤拵 煤拵
煤拵 煤拵 煤拵 煤拵 煤拵
煤拵 煤拵 煤拵 煤拵 煤拵
煤拵 煤拵 煤拵 煤拵 煤拵

四の歌詠

名月や昔よろろのまろろろ
岸も身もろろろけ出れを花外
あくまろろよ出れよこやろろ月の色
ろろろねや船のろろろ送きぬこ
ろろろねや手八伸——ろろろよ送き
拵よもろろ十人多ろろやろろろろ
明ろろろて何ろろろろろろろろろろ
あろろろろろろろろろろろろろろ
あろろろろろろろろろろろろろろ
あろろろろろろろろろろろろろろ
あろろろろろろろろろろろろろろ
あろろろろろろろろろろろろろろ

車 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟

